

# 総務文教常任委員会会議録

(令和5年11月24日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和5年11月24日(金)  
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	池田栄次
委員	金繁典子	委員	佐々木史仁
委員	中野光博	委員	那須芳人
委員	吉村直城		

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本多幸雄	局長補佐	小松一恵
--------	------	------	------

説明のため出席した者

なし

本日の委員会に付した案件

- (1) 所管事務調査
  - 「不登校の現状課題と今後の対応について」
    - ① 現地調査 愛南町子ども支援センター
- (2) その他

開会 14時20分

閉会 14時50分

○石川委員長 それでは、愛南町子ども支援センターの現地調査を終えて再開したいと思います。  
今日、視察していただいた方について、それぞれいろんな感想があるかと思うので、まずお聞きして、進めていきたいなというふうに思います。よろしいですか。

金繁委員。

○金繁委員 今日のだけですかね。

○石川委員長 今日の。視察を終えて。全体のやつはまた後で。まあ誰からでもいいんですが。

金繁委員。

○金繁委員 お話をお伺いして、個別に、一人一人の生徒児童に丁寧に対応されているというのが分かりました。で、一方で、子ども支援センターを利用している子供、生徒さんの数が、今年度は5名ということで、しかも城辺と御荘に限られているというのが少し気になりました。というのは、この中心部から遠いところに住んでいる子供たちはどうしているのかなという現状ももう少し知りたかったかなと思います。

で、個別には対応されていると思うんですけども、居場所があるのかなというのが少し心配でした。で、あと、利用されている人数も、今日ですと誰も来ていなかったと。子供がいなかったんですけども、利用している総数が今年度5人だけと。でも実際に不登校の児童というのは昨年度ですと18名、その前の年も18名ということで、実際に利用している、利用したくてもできない、本人が行く気にならない子供もたくさんいるということも分かったんですけども、個別対応をされているので、そのお仕事内容というのは個々、別々で大変だろうなと思う一方で、この学校に来られない子供たちの、先ほどと重なりますけど、居場所がどうなっているのかというのが気になりました。

以上です。

○石川委員長 佐々木委員、何かありますか。

○佐々木委員 今日初めてセンターを見させてもらったんですが、今、愛南町、不登校が20何名でしたかね、おるそうなんですが、5名しかセンターを利用していないという、残りのその生徒さんをどう支援しているかが、今後の課題だろうとは思いますが。

説明の中で、クロームブックという、リモート教育とかいう言葉が出てきたんですが、今からそういうのも利用しながら、タブレットで家庭から支援していくというような形を取るのも方法じゃないかなと思います。まだまだ課題がいっぱいじゃないかと思います。

以上です。

○石川委員長 中野委員。

○中野委員 意見としては特にはないんですが、聞いたとおりののかなと。センター長が言われたように、今のところではもう言われたとおりにもう淡々とやっていくぐらいなのかなと。もう今聞いたとおりに、ああしてこうして言うても、なかなかやっぱり、そこに行くのもなかなかの人にいろいろ言うのも、センター長の言われたとおりのかなと思って。皆さん感じられたのと同じように、その程度です。特に意見というものはありません。

○石川委員長 那須委員。

○那須委員 同じような意見になりますけれども、潜在的に未利用者がおるんだろうなと。その辺の人数の把握はできていなかったのので、支援センターそのものが受け身の施設であるので、掘り起こしなんかはできないんだろうなというふうに思います。ただ、必要な場所であるので、存在することが大事なんだろうなというふうに感じました。

○石川委員長 池田副委員長、何かありますか。

○池田副委員長 皆さん、センターの皆さん、職員の皆さん、所員の皆さん、一生懸命使命感を持ってやられていると思いました。それで、今の体制がそうなんで、受け身といいますか、皆さん言われたように、学校からってというのが、学校を通してという段階を踏みながら受入れをしているということで、さっき皆さんも言われたように潜在的な方々の掘り起こし、それからセ

ンターへ、これはセンターの役割ではないんですが、センターへつなげていく仕組みをもうちょっと作っていきってということ。まあいろいろと、それぞれ不登校の児童生徒の皆さん、特性っていうのがあってなかなか難しいところはあると思うんですが、やっぱりそういう気持ちを持って悩んでおられる保護者の方々とか、そういう方々をセンターへつなげていく仕組みをもうちょっと、もっと工夫していくのが大切じゃないかと思います。

それと、ちょっと言われとったんですが、やっぱり職員の方、職員というかそのセンターで指導してくれる、相談に乗ってくれる方々の確保、そういう経験を持った方々の確保も今から必要になってくるんじゃないかと思いました。

以上です。

○石川委員長 私の方は、支援センターというのは、受け身なのは受け身なんですけども、学校側から相談を受けて、保護者も含めてですけど相談を受けて、来て、相談に乗って、センターのほうに通われるということなんですけど、こぼれた、支援センターに行けない人のサポートを、ここをどうやって、誰がどの組織でやっていくかということとは十分考える必要があるし、この支援センターと、こぼれたひきこもりの方のサポートも含めて、何かしらのサポート体制がないと、ちょっともう、ひきこもりのになってしまった人のサポートが誰もできていないんじゃないかなというのが感じたのと、あと、学習については、あくまでこの支援センターは学校へ再度通っていただけるような支援、指導、指導はないんでしょうけども、支援をしているというような印象で、多様な生徒の教育機会を提供するにはいいんですが、ただ、生徒それぞれの学習の習熟っていうことについては、ちょっと課題が残る部分があるのかなと。3年間この支援センターに通われた人もおるんでしょうけども、1年も支援センターに通われると、もう完全に学習から取り残されると。だからその取り残された人をどうやって救うのかということも、新しい組織があるのかどうか分かりませんが、どうしていくのかなっていうのがすごくちょっと課題には私は思いました。

机上審査含めて、全体的な今後の進め方も含めて、皆さんの御意見をちょっと伺いたいと思うんですが、御意見ある方いらっしゃいましたら。

金繁委員。

○金繁委員 前回ここで学校教育課長らの説明を受けたときに、この不登校になっている生徒児童たちのその原因というのが、いま一つ明確ではなくて、複合的な、複数の原因ですとかいうことで、その原因究明と解決のところが一番大事だと思うんですけども、ちょっと不明瞭だと感じました。

で、ほかの自治体とか見ていると、やはりそのいじめに対してはこういう対応をしますという方針をしっかりと作っているところが増えているんですけど、愛南町の教育委員会のほうはまだそれを作っていないのかなと。調べても私は見つけられなかったの、ないのではないかと。やっぱりそれを作るべきではないかなと思うんですが、もしできればこれ継続して、他の自治体の教育委員会の対応、原因分析と対応どうされているのかっていうのをちょっと研究して、調査したいなと個人的には思います。そして、提言したい、委員会としてできたらいいなと思います。

○石川委員長 ほかにありませんか。今、金繁委員のほうから、いじめに対する原因究明と対策方針がこれちょっと不明瞭で、そういう方針とかいうのがあるのかないのかっていうのも含めて、もう少しちょっと掘り下げたほうがいいんじゃないかということと、他の自治体を参考に、委員会として提言したらどうだという御意見いただきましたけども、皆さんどうですか。

佐々木委員。

○佐々木委員 継続審査に、すぐに答えがなかなか出てこないみたいなので、継続審査にしたらいとおもいますけど。

○石川委員長 継続審査ということで、先ほど金繁委員からの提案もありましたので、それをちょ

つと検討して、継続審査にしていこうかと思いますが、皆さんいかがですか。

いいですか。いや、皆さん何も言われなくて、ちょっと何か言っていただかないと、ここで決を採るわけにもいかんし。

中野委員。

○中野委員 特に意見はないんでもう委員長、副委員長にあれと思ったんですが、そういう意見があって、やっぱりやるべきだというのがあれば、あえて反対はしませんので、皆さんがそうであれば。

けどなかなか、いいですか、なかなかちょっと難しい問題や思いますよ、いじめが、原因がどうなのかっていうたら、いつまでたっても、すごい長いところで、ある程度でやっていかんと、そう簡単に結論が出るとか、調査ができるいうものではないような気がします。なかなか、うん、もう学校教育課長が言われたように、複合的な部分があって、何がいじめなのか、あれなのかいう部分もそうですし、本質的な部分、なかなか難しい問題だと思います。

○石川委員長 那須委員。

○那須委員 ちょっとおかしな考え方もかもしれませんが、南宇和高校ありますよね、1町1高校で。で、県立高校ですから、町とは関係ないんですけども、町も魅力化計画の中で補助金、お金も出していますし、高校はどうなんだろうと。

で、小学校、中学校はある程度これから掘り下げてはいけるんですけども、せっかくですから南宇和高校、私は、南宇和高校には全く思い入れないんですけども、町内ですからね、その辺のところも踏み込んでいって、少し広げていきませんか。それなら。

○石川委員長 いや、これ広げると、僕、小学校、中学校だけでもこれちょっと深い問題なんで、もうえらいことになるなど。

(発言する者あり)

○石川委員長 いやいや、私もそう、そういう。

(発言する者あり)

○石川委員長 いや、これは。

(発言する者あり)

○石川委員長 これは広げるどころの騒ぎやなくて。

暫時休憩します。

(休憩)

○石川委員長 休憩前に続きまして、会議を再開いたします。

先ほど那須委員のほうから、もうこれでまとめたらいんじゃないかという御意見と、金繁委員の継続審査にして、佐々木委員のほうも継続審査という御意見いただきましたが、継続ということでよろしいですか。

どこまで深掘りするかというのものもあるんですが、ある程度のところで政策提言なりできるような形、委員会として提言できるような形にもっていったらいいのかなというふうには思いますが。吉村委員、何かありますか。

吉村委員。

○吉村委員 ちょっとしゃべりにくいんですけども、どこ行っても一緒やない。

さっき佐々木委員が言いよったあれ、ちょうど広域におるときにあれオープンしたとこなんやけど、あれは趣旨もちょっと違うし、あれやけどもただ、あそこの場合は、あそこの卒業生が、あそこ出た、いわゆる捨てられた子が、社会に出てから差し入れとか支援を一生懸命してくれる子がおるんやいうことで、責任者が非常に感激して、当時話しよったのいまだに覚えているんやけども。ちょっとそこは、これとは違いますけども。宇和島も、さっき言った何とかいうとこ、もうここよりはちょっとあれやけども、似たようなものです。

○石川委員長 どうしますか。決を採ってもいいんですが。継続審査にするか、もうまとめて、ま

とめるというのなかなかまとめにくいというの。

(発言する者あり)

○石川委員長 ほかの自治体で参考になるようなところがあったら行くか、それとも、もう一つは、金繁委員が言われている第三の居場所づくり、この辺りとの連携というのは、これ保健福祉課になるかと思うんですけど、机上審査だけするか。

一番気になっているのはその、先ほど私言ったように、こぼれた、支援センターに行けない、行きたくても行けない方をどうやってサポートするかというのが、私は一番課題かなと思っているんですけど。

ここは誰も多分、学校に任せっきりでマネジメントできていないと思うんですよ。ちょっと、すごく機微で難しい問題ではあるんですけど、政策提言までできるかどうかというのものもあるんですけど。

金繁委員。

○金繁委員 先ほどの、今日の視察の結果をそれぞれが話した際に、まさに委員長がおっしゃったことを多くの委員がおっしゃっていたと思います。

で、おっしゃるようにその子ども第三の居場所づくりがこの受皿になれるのかどうか把握できない、今、受け身状態で存在している子ども支援センターからこぼれている子供たち、生徒さんたちを、子ども第三の居場所づくりがバックアップできるのか、それとも別の形があるのかっていうのは、私はもうちょっと調べてみたいと思います。で、提言できるようにできたらと思います。

○石川委員長 そういう金繁委員から提案ありましたけども、視察よりもそちらを机上審査して、提言していったほうが私もいいんじゃないかなとは思いますが、皆さんいかがですか。

よろしいですかそれで。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 那須委員、よろしいですかそれで。

○那須委員 そうですねえ。

(発言する者あり)

○石川委員長 ということで、次回、机上審査をもう一度、もう一度といいますか、初めてになりますが、保健福祉課は、第三の居場所づくりと、この不登校の問題を、どういうふうなマネジメントしていくのかということをお聞きする機会を設けたいと思いますが、それでよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 那須委員。

○那須委員 年越えて1月、2月ということですよ。継続審査ということはそういうことですよ。11月にしないのですから。

○石川委員長 いや、12月になるか1月になるかはまだ。保健福祉課には聞いてみますけど。ほかの日程もありますので。多分その可能性が高いと思います。

○那須委員 総務の報告が、しないで、継続審査ということは、12月には報告しないので、年越えてになるでしょ。そういうことでいいんですね。

○石川委員長 そういうことです。はい。

そういうことでよろしいですか。継続審査ということになりますが。もう日程的にもちょっと厳しいので、まとめると言っても、12月に開いたとしても、とてもじゃないですけどまとめまではできませんので。

それでは、次、その他、何かありますか。

(「ないです」と言う者あり)

○池田副委員長 そしたら、これで閉会いたします。御苦労までした。

委員長